

「手織印鑑入れ」 織物の設計図である「紋図」通りに打ち込み加減だけで織り上げること、柄にふさわしい配色となるように色糸を組み合わせるところを工夫しました。

販売価格 1,500円(税抜)

「手織巾着 淡雪」 淡雪の舞う風情を織り上げ、巾着とした作品。老若男女、季節を問わず使えるような配色・型にしました。着物だけでなく洋服ともコーディネートしやすい袋物です。

販売価格 25,000円(税抜)

「手織 織額 蓮」 伝統の西陣織の「引き箔」の技法で、蓮を本金箔で表現し、別の色糸で縫い取りをした蕾をアクセントにした織物の額。金箔の蓮が華美ではなく、上品な豪華さに仕上がるよう、同じく西陣織の表装裂との配色にこだわりました。

販売価格 25,000円(税抜)



## 平居 幹央

1969年京都市生まれ。1991年平居機業(現・有限会社織匠平居)入社。1995年「京もの工芸品技術後継者」認定。2007年「京の若手職人総合技術コンクール」優秀賞受賞、「京もの認定工芸士」認定。2008年「伝統工芸士」(西陣織)認定。2012年京都市伝統産業「未来の名匠」認定。

〒602-0066  
京都市上京区小川通り寺之内下ル射場町551  
(有)織匠 平居  
TEL.075-431-0610  
FAX.075-431-0619  
Eメール h-micky@khaki.plala.or.jp

僧侶のまとう袈裟用の法衣金襴を専門に手がけています。手織一筋に、先人から受け継がれてきた文様や技法を守り継ぐため日々努力しています。「引き箔」と呼ばれる伝統技法を用い、豪華かつ上品な織物に仕上がるよう、一手間を大切に作る製品づくりを心がけています。これら西陣織の伝統の織物、しかも法衣という特殊な裂地を、和だけでなく洋装や洋空間にも適う織物とするため、法衣以外の作品もつくっています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都市府知事から授与される称号。

# 手織の法衣金襴の 格調と豪華さを洋にも生かす

京もの認定工芸士 第6号

ひらい  
みきお  
平居 幹央

